

令和2年度 岐阜県家庭教育支援推進事業（家庭教育支援員）の活動報告書

◆市町村名

関市

◆所属部署

協働推進部生涯学習課

◆家庭教育支援員の役割

現代社会は親子の育ちを支える人間関係の弱まりや、子どもの社会性や自立心などの育ちをめぐる課題など、家庭教育が困難になっている社会だと言える。関市においては、様々な組織や団体が家庭教育支援を行っているとはいえ、家庭教育に困難を抱える家族も少なくない。

そこで、関市では家庭教育支援チームを設立し、チームのメンバーが「親の育ちを応援する」「家庭のネットワークを広げる」「支援のネットワークを広げる」ことを重点に活動し、地域の乳幼児や園、小中学校の家庭教育学級を通して家庭教育支援が実施されるように取り組む。

◆主な活動

■「家庭教育支援コーディネーター」養成講座

第2次養成講座（前年度からの続き）

- ・第6回 10/24 関市の家庭教育学級の実態及び支援チームの必要性や支援の具体
講師：岐阜女子大学特任准教授 熊崎康文氏
- ・第7回 11/21 発達障がいなど、日常的に困り感のある子への理解と対応
講師：岐阜大学准教授 神野幸雄氏
- ・第8回 12/12 離婚、死別、虐待、DV等の家族の危機と子どもへの心理的影響
講師：岐阜大学准教授 松本拓真氏
- ・第9回 1/16 コロナで変わったネットの中の子どもたち
講師：情報モラル教育研究所代表 上水流信秀氏
- ・第10回 2/20 これからの子育て支援
講師：株式会社ヒューマンハート代表 百武大介氏

* 令和元年度10月より10回計画でスタートした第2次養成講座である。当初は令和2年4月に開講予定であったが、コロナウイルス感染拡大により、半年延期して10月の開講となった。

■乳幼児期家庭教育学級の運営支援

- ・関地域乳幼児期家庭教育学級の運営を養成講座修了者5名が支援
家庭教育学級のスムーズな運営を担うとともに、参加者に寄り添い、話を聞いたり声をかけたりして、学級への参加を支援した。今年度は複数の講座をコーディネーターが担当し、企画・準備から当日の運営までを行い、受講生に好評であった。

■市内の園、小中学校の家庭教育学級支援への歩み出し

- ・コロナ禍の今年度、ほとんどの園や学校は例年のような活動を行うことができなかった。一方、こうした状況であるからこそ、コーディネーターにどんな支援ができるかについて現場のニーズを聞き取った。その結果、手始めとして、市内1校1園にコーディネーターが入り、次年度の家庭教育学級の計画を立てる際に「新しい生活様式」の中でも取り組みやすい在宅取組型の家庭教育学級について提案したり、計画の立案について助言したりするなどの支援をスタートすることとした。これを皮切りとして、徐々に園や学校の支援を広げていきたいと考えている。

◆成果

○養成講座について市の広報で追加募集を行うとともに、他課と連携して、特に子どもや家庭と関わりの深い民生委員・主任児童委員にチラシを配付するなどして受講を働きかけた。その結果、41名であった受講登録者は47名に増えた。また、その中で養成講座を8回以上受講し、家庭教育支援コーディネーターとして登録された方は25名となった。

○コロナ禍の中で現場が何を求めており、コーディネーターにどんな支援ができるのかを聞き取り、具体的な支援のきっかけとすることができた。

○乳幼児期家庭教育学級の複数回について、コーディネーターに企画から準備、運営まで任せたことで、参加者の声を聞きながらコーディネーターが主体的に活動内容を工夫することができた。参加者からは、「新型コロナウイルスで大変な状況の中、感染防止に気を配りながらの楽しい企画がうれしかった」「コーディネーターが優しく接してサポートしてくれ、心が救われた」などの感想が聞かれた。

◆問い合わせ先

関市協働推進部生涯学習課

0575-23-7776